

## 再処理施設の工事計画に係わる変更内容等について

### 1. 工事計画の変更内容および理由

当社はこれまで、アクティブ試験\*期間については、ウラン試験の状況を踏まえて検討することとしておりました。

現在、平成 16 年 12 月のウラン試験開始から 3 ヶ月が経過し、試験がほぼ順調に進んでおり、今後の試験工程が見通せる状況となってきたことを踏まえ、このたびアクティブ試験期間を平成 15 年 9 月に公表した期間と同じく約 17 ヶ月とし、再処理工場のしゅん工時期を「平成 18 年 7 月」から「平成 19 年 5 月」に変更しました。

\* アクティブ試験...使用済燃料を用いた総合試験

### 2. 建設工事費の変更内容（平成 11 年 4 月公表の建設工事費との比較）

#### （1）直接工事費

試験運転期間の延長に伴い、試験運転費が増加するものの、前回建設工事費見直し以降の合理化・効率化実績を反映し、約 100 億円の増加となりました。

#### （2）間接工事費

試験運転期間の延長に伴い、人件費・諸経費が約 400 億円の増加となりました。

当社といたしましては、引き続き安全確保と品質保証を最優先に試験運転・操業に取り組んでいくとともに、今回の工事計画見直しに伴う建設工事費の増加につきましては、総事業費へ影響を来すことがないよう、今後の経営努力によって吸収してまいります。

## 再処理施設の工事計画及び建設工事費の変更経緯

	平成 11 年 4 月変更	平成 15 年 9 月変更	平成 16 年 11 月変更	今回変更	増加額
アクティブ試験開始時期	平成 16 年 7 月 (試験期間約 12 ヶ月)	平成 17 年 2 月 (試験期間約 17 ヶ月)	平成 17 年 12 月 (試験期間約 7 ヶ月)	同左 (試験期間約 17 ヶ月)	-
しゅん工時期	平成 17 年 7 月	平成 18 年 7 月	同左	平成 19 年 5 月	-
建設工事費	2 兆 1 , 4 0 0 億円			2 兆 1 , 9 0 0 億円	5 0 0 億円
(直接工事費* <sup>1</sup> )	( 1 兆 7 , 4 0 0 億円)			( 1 兆 7 , 5 0 0 億円)	( 1 0 0 億円)
(間接工事費* <sup>2</sup> )	( 4 , 0 0 0 億円)			( 4 , 4 0 0 億円)	( 4 0 0 億円)

\* 1 : 直接工事費 : メーカーや建設会社と契約する土木、建物、設備等の発注額および試験運転に直接要する費用

\* 2 : 間接工事費 : 人件費、諸経費、建設中利子

以 上

## 使用済燃料の取得計画及び予定再処理数量

(単位：t・U<sub>pr</sub>)

年度	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
取得計画	8	24	96	340	312	0	527	575	550	550	600	800	800	800
予定 再処理数量								34	358	326	467	627	787	800
貯蔵量	8	32	128	468	780	780	1307	1848	2040	2264	2397	2570	2583	2583

注：・t・U<sub>pr</sub>は照射前金属ウラン質量換算です。

・1998（H10）年度から2003（H15）年度までは実績値です。

・貯蔵量は輸送容器（キャスク）に収納されている使用済燃料も含まれます。

(参考)

平成15年9月に公表した計画

(単位：t・U<sub>pr</sub>)

年度	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
取得計画	8	24	96	340	312	116	500	500	800	850	850	800	800
予定 再処理数量							30	270	350	480	640	800	800
貯蔵量	8	32	128	468	780	896	1366	1596	2046	2416	2626	2626	2626

注：・t・U<sub>pr</sub>は照射前金属ウラン質量換算です。

貯蔵量は輸送容器（キャスク）に収納されている使用済燃料も含まれます。